

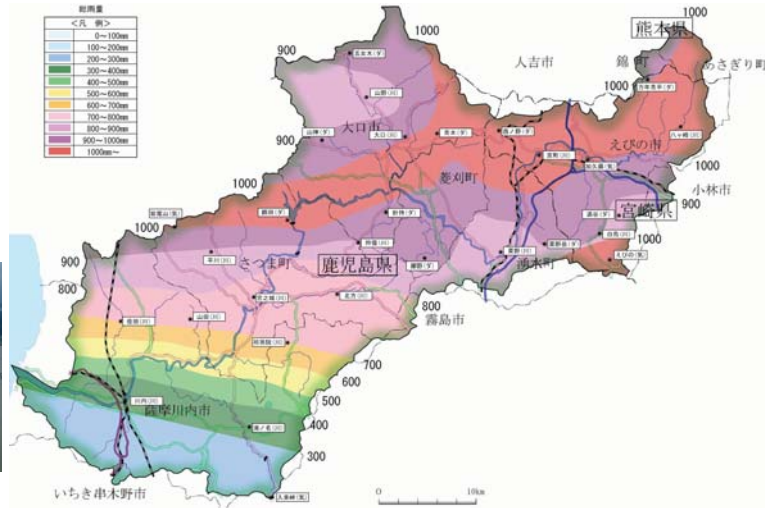
# 平成18年7月、流域に大量の雨が降り続いた



さつま町虎居地区の浸水状況

## 流域各地で1,000mmを超える降雨を観測 記録的な豪雨となった

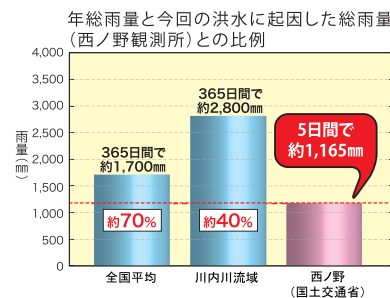
川内川流域では、梅雨前線の活動が活発化し、7月19日から7月23日にかけて薩摩地方北部を中心に記録的な大雨となりました。18日の降り始めからの総降水量は多いところで1,000mmを越す雨量観測所が3箇所あり、西ノ野では1,165mmとなりました。



旧菱刈町菱刈地区

## 20箇所の観測所で過去最高の降水量

川内川流域においては、25観測所中20観測所で過去最大の洪水が発生した際の総雨量を超える雨量を記録しました。たった5日間で川内川流域の年総雨量の約40%、全国平均の年総雨量の70%が降ったことになります。



※川内川流域 (出典:国土開発調査会「河川便覧2004」)  
 ※全国平均 (出典:(財)水資源協会「日本の水2005」1971~2000年の平均)

## 11観測所で観測史上最高水位を更新

川内川及び羽月川にある15の水位観測所のうち、11箇所を観測史上最高水位を記録。また吉松、栗野橋、宮之城、花北の4箇所の観測所では、計画高水位を上回る洪水となりました。



薩摩川内市南瀬下地区



宮都大橋(さつま町)



宮之城大橋(さつま町)

## 記録的な洪水により鶴田ダムは「計画規模を超える洪水時の操作」に移行

川内川の中流にある鶴田ダムでは下流域の浸水被害を最小限に食い止めるために洪水調節を行いました。洪水が長時間継続したため、ダムへの総流入量が計画規模を大幅に上回り、確保している洪水調節容量では不足する記録的な洪水となりました。そのため流入量とほぼ同量を放流する「計画規模を超える洪水時の操作」に移行しました。



平成18年7月洪水時の鶴田ダム放流状況

豪雨のため発生した土砂災害により鶴田ダムに通じる道路が不通となり、管理所が孤立しました。

